

「豊島区環境基本計画 2019-2030」リーディングプロジェクトの進捗状況について

1. 基本目標 I（脱炭素化）

「としま低炭素モデル地区基準」の設定による低炭素まちづくりの推進

(1) 概要

新たに低炭素モデル地区基準を設定し、区内事業者に対して推進していく。この取り組みにより、地域全体のエネルギー利用の最適化を目指し、脱炭素まちづくりを推進していく。

◆としま低炭素モデル地区基準

下記、I を満たし、II を 2 つ以上満たすもの

基準	要件
I 環境性能	非住宅:東京都建築物環境計画書制度 段階3 ※ 住宅:住宅性能表示制度 断熱等性能等級 等級 4 ※
II エネルギーの面的利用	・地域冷暖房 ・コージェネレーションシステム ・再生可能エネルギー

※「東京都建築物環境計画書制度」:段階 3 は、環境への配慮のための措置として環境への負荷の低減に著しく高い効果を有するもの。

「断熱性能等級」:等級 4 は、熱量損失等の大きな削減のための対策が講じられているもの。

(2) 関連する指標

取組指標	現状値 (H29)	目標値 (R12)	目安値 (R3)	実績 (R1)	実績 (R2)	実績 (R3)	目安値の 進捗状況
としま低炭素モデル地区 基準を満たす地区 (累計)	1	4	2	2	2	3	◎

(3) 実績と評価

南池袋二丁目C地区第一種市街地再開発事業地における地域冷暖房熱供給加入に伴い、地域冷暖房の供給導管の新設にかかわる都市計画変更を、令和3年度に行った。今後も、先進的な環境性能を誇る建築物やエネルギーシステムを区内に集結させ、複数建築物間のエネルギーをつなぐとともに、ICTを活用し、地域社会のエネルギー利用の最適化を目指す。



年度	実績
H23	豊島区役所(南池袋二丁目A地区)
R1	東京国際大学池袋国際キャンパス
R3	南池袋二丁目C地区

地域冷暖房供給区域図

2. 基本目標II（自然共生）

みどりやビオトープの維持管理

（1）概要

区有施設に整備したビオトープや「グリーンとしま」再生プロジェクトにより創出したみどりについて、専門家の調査をふまえて今後の維持管理の改善に努めていく。また、区民や地域団体との協働による維持管理体制の構築を検討していく。これらの取り組みにより、質の高いみどり空間を維持し、人と自然の共生を進めていく。

（2）関連する指標

取組指標	現状値 (H29)	目標値 (R12)	目安値 (R3)	実績 (R1)	実績 (R2)	実績 (R3)	目安値の 進捗状況
学校・区立公園のビオトープ数（累計）	19 か所	21 か所	20 か所	19 か所	19 か所	19 か所	○
地域が管理する公園・ビオトープの数	3 か所	3 か所	3 か所	3 か所	3 か所	3 か所	○

（3）実績と評価

①維持管理の改善について

令和3年度は、南長崎はらっぱ公園と清和小学校、池袋第三小学校、目白小学校のビオトープについて専門家の調査を行い、今後の維持管理に関するアドバイスを行った。

「グリーンとしま」再生プロジェクトにより創出したみどりについては、平成29年度に専門家による調査、令和元年度には職員による実態調査を行った。植樹場所の環境や周囲の状況によって、生育状況や管理方法に違いがあり、維持管理の難しさが今後の課題となっている。引き続き、職員による樹木の確認を継続し、生育状況を注視していくとともに将来の維持管理について検討を行っていく。

②連携による緑などの保全について

令和3年度は、池袋本町電車の見える公園と南長崎はらっぱ公園で過去に植樹された「いのちの森」の手入れ活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。また、南長崎はらっぱ公園では、地域住民等と連携し、ビオトープの維持管理も継続して行っている。平成29年度から行っているアメリカザリガニの駆除数は累計1,800匹となっている。またトンボ類の幼虫（ヤゴ）は平成30年度から引き続いて確認することが出来ており、取り組みの効果があらわれている。

今後も区民や地域との連携による維持管理を進めていく。



南長崎はらっぱ公園での育樹活動の様子

3. 基本目標Ⅲ（資源循環）

食品ロス削減対策事業

（１）概要

食品ロス削減に向けた普及啓発に加え、民間事業者との連携により地域全体での食品ロス削減対策を促進していく。

（２）関連する指標

取組指標	現状値 (H29)	目標値 (R12)	目安値 (R3)	実績 (R1)	実績 (R2)	実績 (R3)	目安値の 進捗状況
食品ロスに関する啓 発講座の実施回数	2回/年	4回/年	3回/年	1回/年	－※	－※	－

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず

（３）実績と評価

①民間事業者との連携について

民間企業においても食品ロス削減の意識が高まっており、令和3年度の活動として池袋マルイや西武池袋本店にてフードドライブを開催。池袋マルイでは計4日実施（481点、121.15kg受付）し、西武池袋本店では計5日実施（627点、129.3kg受付）し、集まった食品は豊島区民社会福祉協議会等へ提供した。令和4年度は、西武池袋本店のほかサンシャインシティと新たに連携して、フードドライブを実施した。

また、豊島区食べきり協力店の取り組みでは、令和3年7月に西武池袋本店のレストラン街「ダイニングパーク池袋」26店舗が登録された。令和4年7月末現在で、26件（51店舗）が登録されている。

さらに、フードシェアリングサービス「TABETE」を運営する株式会社コークッキングと「豊島区における食品ロス削減に向けた連携協定」を令和3年3月29日に締結し、区内事業者に対し普及啓発活動を行い、登録店舗は20店舗（協定締結時）から39店舗（令和4年8月19日現在）まで増加した。

②区内循環型フードドライブについて

食品ロス削減の取組は区民に着実に広がっており、令和2年度は、2,910個、604kg、令和3年度は、7,422個、1,673kgの食品が集まった。令和4年度は、7月末時点で、1,546個、約650kgの食品が集まっている。今後も区民ニーズに沿った方法でフードドライブを実施し様々な方法で活動の場を検討する。



集まった食品の一部

4. 基本目標Ⅳ（快適環境）

路上喫煙・ポイ捨て防止対策の充実

（１）概要

区では平成23年5月に区内全域「路上喫煙・ポイ捨て禁止」を基本とした『路上喫煙及びポイ捨て防止に関する条例』を定め、安全で快適な街づくりを進めている。

外国人在住・在勤者、来街者にもルールやマナーを理解してもらうため多言語音声翻訳機を活用した路上喫煙・ポイ捨て防止パトロールを行っている。また、路上啓発表示や看板についても多言語対応をしていく。

これまで、路上喫煙・ポイ捨て防止キャンペーンとして、区民・事業者・区が一体となり通行人への呼びかけ、清掃活動を実施していたが、令和3年度よりごみゼロウィークに事業名を変更して、多くの方が密集するのを避けながら駅周辺などの清掃活動を行った。

（２）関連する指標

取組指標	現状値 (H29)	目標値 (R12)	目安値 (R3)	実績 (R1)	実績 (R2)	実績 (R3)	目安値の 進捗状況
路上喫煙・ポイ捨て防止 キャンペーンの開催回数 (R3より事業名を「ごみ ゼロウィーク」に変更)	12回/年	18回/年	14回/年	18回/年	4回/年	8回/年	△
路上喫煙・ポイ捨て防止 パトロールの時間数	8,432 時間/年	10,000 時間/年	8,914 時間/年	11,758 時間/年	8,815 時間/年	8,720 時間/年	○
路上喫煙・ポイ捨て禁止 啓発路上シールの貼付数	115枚/ 年	200枚/ 年	141枚/ 年	161枚/ 年	144枚/ 年	257枚/ 年	◎

（３）実績と評価

日本語・英語・中国語・ハングルの4か国語を表記した路上喫煙・ポイ捨て禁止啓発路上シール及びポスターを作成し、「路上喫煙・ポイ捨て禁止」の周知・啓発を行っている。

また、路上喫煙・ポイ捨て防止パトロールでは、外国人に対しても注意・指導を70か国以上対応の多言語音声翻訳機を平成30年度から活用し、注意・指導を実施している。



路上喫煙防止の路上シール

5. 連携・協働

(仮称) クリーンサポーター・リーダー制度

(1) 概要

現在、区内の企業・団体が「としまクリーンサポーター」として登録し、自主的な環境美化活動を実践していただいているが、クリーンサポーター同士や、地域の清掃活動に参加する地域住民間での交流や連携を推進していくために、クリーンサポーター制度を発展させた「(仮称)クリーンサポーター・リーダー制度」を新たに創設し、リーダー育成の機会を提供していく。この制度の創設と運用により、区内の異なる主体間の連携による環境活動を活性化し、環境づくりのための行動の輪を広げていく。

(2) 関連する指標

取組指標	現状値 (H29)	目標値 (R12)	目安値 (R3)	実績 (R1)	実績 (R2)	実績 (R3)	目安値の 進捗状況
企業等の自主的な環境活動（としまクリーンサポーター登録団体数）	133 団体	150 団体	138 団体	143 団体	159 団体	140 団体	○

(3) 実績と評価

令和3年度に「としまクリーンサポーター」の活動状況調査を行い実態に合わせた整理を行った。そのため登録団体数は減少したが、新規登録数は前年度の16件を上回る22件あり、140団体の登録となっている。

これらの企業・団体の中でも多くの参加者を集め地域を活性化させる積極的な活動を継続しているリーダー的な企業・団体に対して、今後も地域での中心的な役割を担っていただけるよう区からも連携を働きかけていくことで、クリーンサポーター・リーダーの役割を担っていただけるようにしていきたい。

クリーンサポーターなどが発信力を高め、参加者同士の交流や情報共有ができる仕組みを検討し、令和3年度に実証実験を実施した。



としまクリーンサポーター活動の様子